

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 9月 2日 更新

事務事業名		三つの木の家維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☒ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	上原 哲也
	施策	21	生涯学習の推進			所属課	生涯学習課	担当者名	中村 考智
	基本事業	69	生涯学習施設(環境)の整備			所属班	生涯学習班	(内線)	1516
予算科目		会計一般	款10	項5	目5	事業連番10833	法令根拠	三つの木の家条例	
								成果優先度評価結果	⑫
								コスト削減優先度評価結果	⑥
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返(開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	三つの木の家施設全般の消耗品、備品補給や施設各所の営繕、維持管理を行い、市民が利用しやすい施設環境を整える。平成元年4月に三つの木の家が開館し(学校教育施設として)、施設の維持管理が必要となった。平成11年度から、社会教育施設として再スタートし、学校だけでなく住民団体の活動にも使用できるようになった。
【業務の流れ】	1. 管理人対応(配置、報酬支払い、利用者受け入れ対応、予約受付) 2. 屋内管理(光熱費支払い、事務機器リース契約、布団リース契約、機械警備契約、定期清掃、施設修繕等) 3. 屋外管理(樹木管理、芝生広場管理、施設修繕等、ボイラー清掃点検委託)
【主な予算費目】	報酬(管理員相当分)、需用費(消耗品費、光熱水費、修繕費、施設修繕費、燃料費)、役務費、委託料、使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	敷地面積が広く、樹木や芝生の管理も数多くこなす必要があるため、管理における多種多様な備品の購入と、管理人増員の要望が挙がっている。特に人員増については、現管理人より現勤務シフトでは通常の業務をこなしていくことが困難であると申し出があり、また、三つの木の家指導員との勤務体系による確執も生まれている状況から、何かしらの対策を講じる必要があると思われる。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
前年度と同様の維持管理業務		①通常の維持管理業務 ②施設小規模改修 ③樹木伐採	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 人件費、物件費の事業費実績額	円	【拡充事業】施設改修工事費の増 樹木管理委託料の増	
イ			
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
施設利用者		→ ア 施設利用者数	人
		→ イ	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
三つの木の家施設を快適に利用してもらう。		→ ア 施設利用時に快適さに欠けると思う利用者数	人
		→ イ	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠			総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
成果指標設定の理由: 施設利用者からの苦情が少なければ、施設を適切に維持管理できていると考えられるため。 目標設定値の理由: 前年度の実績をもとに設定した。			
			0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
投 入 費 量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円	236	78	300	229	374		
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	3,520	5,596	3,606	3,060	5,743	7,854	8,854
	人件費	(A)事業費計	千円	3,756	5,674	3,906	3,289	6,117	7,854	8,854
		(A)のうち指定経費	千円	1,118	1,119	1,119	1,118	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	1	1	3	0	3	3	0
人 件 費	延べ業務時間		時間	250	20	320	0	320	320	0
	(B)人件費計		千円	1,030	80	1,292	0	1,292	1,292	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	4,786	5,754	5,198	3,289	7,409	9,146	10,146

事務事業名	三つの木の家維持管理事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した ☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 建設から20年を超えており、施設各所にて修繕が必要な箇所が増えており、また時代の要請にあった改修も必要である。今後は計画的に修繕・改修を進めることで目標を達成することは可能である。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 現在は厳しい財政事情で必要最小限の施設維持のみ行っているため、施設の近代化が追いついていないので、計画的に修繕と改修を進める必要がある。 また、人員不足な面も否めないため、非常勤職員（管理人）の増員が必要と思われる。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 当施設と目的が類似しており、宿泊可能である研修施設が他に無いため。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 平成20年度より管理人を1名減らし、光熱費も利用者の協力のもと削減に取り組んでいる。しかし、開館から20年が経過し空調、ボイラー、その他事務機器の経年劣化による修繕が今後必要になると考えられる。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 管理業務のほとんどを嘱託の管理員及び指導員に任せており、正職員は最低限の事務を行っている。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 施設利用の市民には、受益者負担の原則に従い、施設に維持管理の一端を担っていただくため、施設使用料の負担をいただいております。利用者による適正な維持管理に貢献しており公平公正であると考えます。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】 施設管理業務であり難しい。

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

施設管理については、多くの修繕箇所を本年度で完了できたので評価は上出来であると思われる。一つ課題に挙げられるのは、「施設職員が不足しており業務に差し障りがある。増員してほしい」と要望があっており、今後検討していく必要があると思われる。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							